

2023年度 劇場美術演習Ⅰ 劇場美術デザインコース3年次インターゼミ上演演習

砂箱

短い劇 1959年

多摩美術大学上野毛キャンパス 演劇舞踊スタジオ Aスタジオ

2023.8.1 (Tue) - 8.2 (Wed)

ぼくは死の天使です

記憶をたどるように、前と同じようにここで待たされている。

初めて会うはずの青年が放つ「死の天使」というフレーズを何度聴いたのだろうか……

作：エドワード・オールビー

翻訳：鳴海四郎『エドワード・オールビー全集』第2巻 早川書房

演出：及川萌百花

キャスト

おばあちゃん：小野里満子 青年：西川真黄 かあさん：一木海南江 とうさん：明石皓大 楽士：松島勇輝

スタッフ

舞台監督：西村佳子 美術プランナー：住吉愛子

大道具：安藤友香 大曾根佑紀 梶スマレ 中野恵 西内穂波 牧野莉子

小道具：加藤優奈 東元ひかり 衣裳プランナー：海老原繪 衣裳製作：伊丹優樹 野村芽衣 南奏羽 音響：Xu Xuan

照明デザイン：福崎梨咲 前田遙来 照明オペレーション：Hong Dahyeon 宣伝美術：松橋杏夏 制作：井上祥多 吉田美織

アドバイザー

演出：野上絹代 舞台監督：佐藤恵 美術プラン：金井勇一郎 小池れい 美術製作：阿部宗徳 大塚義紀 衣裳プラン：加納豊美

衣裳製作：石橋舞 三浦洋子 音響：鈴木はじめ 照明：大平智己 宣伝美術：則武弥 制作：坂本もも 授業担当副手：木下裕絵

砂箱

短い劇 1959年

日時 2023.8.1 (Tue) 17:00/19:00

— 8.2 (Wed) 17:00/19:00

受付・開場：開演の30分前 上演時間：約30分を予定

※自由席

※当日受付順入場

※開演時間を過ぎますとお席にご案内できない場合がございます

※未就学児入場不可

※車椅子でご来場の方はスペース確保のため、事前にご連絡ください

感染症対策について

本公演はお客様・出演者・スタッフの新型コロナウイルスへの感染防止対策を徹底し開催いたします。

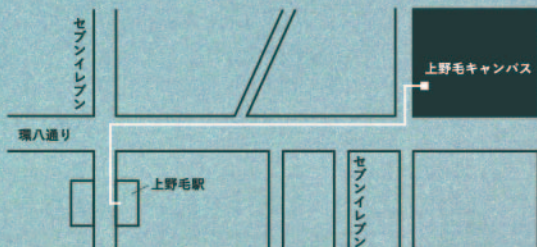
ご来場の際は、マスク着用と手指消毒のご協力をお願いいたします。

今後の感染状況により、一部内容の変更や公演中止の可能性がございますこと、あらかじめご了承ください。

会場

多摩美術大学上野毛キャンパス 演劇舞踊スタジオ Aスタジオ

〒158-8558 東京都世田谷区上野毛 3-15-34



アクセス

東急大井町線「上野毛駅」下車、環状8号線沿い（瀬田方面）に徒歩3分。東急田園都市線「二子玉川駅」下車、徒歩12分。

※キャンパス内に駐車スペースはございません。公共交通機関をご利用ください。

演劇舞踊デザイン学科とは

<演劇舞踊コース>と<劇場美術デザインコース>があり、コースごとの専門性を深めると同時に、交差し合いながら上演芸術を学んでいます。上演芸術界の第一線で活躍する教員が、これからの表現を切り開いていく豊かな人材を育成しています。

お問い合わせ 2023sunabako@gmail.com (制作部)

主催 多摩美術大学 演劇舞踊デザイン学科

料金

無料・要予約

予約フォーム

<https://www.quartet-online.net/ticket/2023sunabako>



『砂箱』と同日開催！

展示

『砂箱』デザインワーク／劇場美術デザインコース課題

13:00～19:00 (両日ともに) @B棟 B-105

『砂箱』上演にむけてコンペに出品したデザインワークの模型やデザイン画を展示するほか、カンパニーオリジナルの作品紹介、展示などをご覧ください。

展示

卒業共同製作展『侵食』

@演劇舞踊スタジオ Bスタジオ

空間演出作品 神田夕莉・新村明佳

身体ワークショップ『身体を探る』

8月1日(火)16:00～17:30 講師：近藤良平

8月2日(水)14:00～15:30 講師：野上絹代

@A棟 演劇スタジオ

無料・要予約・20名先着順

応募フォーム <https://forms.gle/a9LWCYbmJ9Uk4qtK8>



進学相談

8月1日(火)15:00～19:00

8月2日(水)13:00～17:00

@B棟 B-105

多摩美術大学 演劇舞踊デザイン学科 サマースクール 2023

2023年8月1日(火)・2日(水)

多摩美術大学 演劇舞踊デザイン学科 上野毛キャンパス

劇場美術演習 | 劇場美術デザインコース3年次インターゼミとは

舞台美術ゼミ・照明ゼミ・衣裳ゼミの合同課題とし、上演作品を創作し、公演を行います。机上のデザインワークを、実際の舞台空間における上演作品とする全過程を学ぶ演習です。例年、エドワード・オールビーが1959年に発表した『砂箱』を課題戯曲とし、社会と演劇を批評するこの戯曲から、年度毎に全く異なる表現が生まれています。演出家と俳優は、演劇舞踊コースからの選抜メンバーです。